

今日のトピック 最近の指標から見る米国経済(2015年2月) 消費がけん引する持続的な成長へ

ポイント1 10-12月期のGDPは減速

個人消費は加速

- 2014年10-12月期の実質GDP成長率は、前期比年率+2.6%と市場予想の同+3.0%を下回り、7-9月期の同+5.0%から減速しました。設備投資が大きく鈍化し、輸入が増えたことが成長率鈍化の要因です。
- 一方、個人消費は前期比年率+4.3%と伸びが加速しました。雇用の改善が消費に好影響を与えたと見られます。

ポイント2 雇用は着実に改善

雇用増の基調は30万人超

- 1月の雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比25.7万人増加し、市場予想(ブルームバーグ集計)の同22.8万人を上回りました。11月分は同35.3万人から42.3万人へ、12月分は同25.2万人から32.9万人へとそれぞれ大幅に上方修正されました。1月はサービス業の伸びが全体をけん引しました。
- 失業率は5.7%と前月から0.1ポイント上昇しましたが、雇用環境の改善を背景に求職者が増加した影響によると見られます。

(前期比年率、前年比、%) 実質GDPと個人消費



(注)データの期間は2013年1-3月期~2014年10-12月期、2014年~2016年。2015年以降はIMFの2015年1月の予測。
(出所)Bloomberg L.P.、IMFのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(万人) 非農業部門雇用者数と失業率 (%)



(注)データの期間は2014年1月~2015年1月。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 年半ば以降に利上げ開始、消費が牽引する+3%程度の成長へ

- 雇用の着実な改善に加えて、ガソリン価格の下落による家計の購買力向上から、消費のけん引力が高まりそうです。一方、エネルギー部門の投資抑制などから、設備投資は回復が引き続き緩慢と見込まれます。しかし、原油安の恩恵は中期的に経済全体にプラスの効果をもたらし、年率+3%程度の成長が実現する見通しです。
- 雇用の改善を確認しつつ、FRBは、今年半ば以降に利上げを開始すると見られます。当面はFOMCの声明文で、「利上げまで『忍耐強く』なれる」が、2004年の利上げ開始前に用いられた「利上げを『慎重に』」と変更されるタイミングが注目されます。

ここも チェック!

2015年02月12日 米国主要企業の業績見通し
2015年02月05日 米国のISM景況感指数(2015年1月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。